

有限会社人の森

野田直人と学ぶ開発実務者講座

テキスト

このテキストは過去の講座に用いたものを紹介用に抜粋して掲載するもので、最新の講座コンテンツを含んでいるわけではありません。コンテンツは毎回講座ごとに見直され、講座参加者に配布されています。

この講座のホームページ http://www.hitonomori.com/dev_seminar/fieldworker.html

この講座の問い合わせ先 info@hitonomori.com TEL 0586-72-5445 有限会社 人の森

レクチャー・モジュール

- ✓ 参加型開発概論
- ✓ 参加型アプローチ入門
- ✓ 仮説のマネージメント
- ✓ PRODEFI モデルの紹介
- ✓ システム思考の導入
- ✓ 開発協力の基礎知識・社会編
- ✓ 開発協力の基礎知識・経済・ビジネス編
- ✓ 工夫力を付ける
- ✓ 演習

参加型開発概論

モジュールの目的

混乱している参加型の意味を考え直し、巷にあふれる「参加型」と称するものの正体を見極められるようにするとともに、実効性のある参加型を立案できる基礎を作る。

なぜ参加型か

なぜ参加型は難しいか

参加型の定義

参加型手法とツール

参加型開発の理念

リアリティ

参加型プロジェクトの虚像

参考文献

『参加型開発と国際協力』 ロバート・チェンバース著、明石書店
<http://hitonomori.com/books/4750313076.html>

『参加型開発の再検討』 アジア経済研究所
<http://hitonomori.com/books/4258091995.html>

『共生社会への課題』
<http://hitonomori.com/books/4902225360.html>

参加型アプローチ入門

モジュールの目的

援助する側のレトリックや思い込みではなく、機能する参加型のポイントを学ぶ。ツールの詳細や実習などは行わず、あくまでも機能するコツに対象を絞る。

参加型の譲れない原則

- 彼らはできる
こう信じるにより「任せる」ことができる。大前提。
- 機会均等
レトリックではなく、保証するための工夫をするのが重要。意味を考えよう。
- チャンスを増やす
選択肢・依存先は多いほどよい。何をどう提供できるか。例を考えよう。

外部者の役割

プロジェクトとプロセス

PRA/PLA の概略

トップダウンの参加型

参加型を捨てよう

- 重要なのは「参加」ではなく機会と自主性
「参加」という言葉がもたらす誤解は看過できないほどである。何かへの参加が重要なのではなく、何らかの「機会」を得て「自主的に」その機会を利用することが重要。
「自主性発揮のための機会提供アプローチ」を考えよう。

参考文献

『続入門社会開発』プロジェクト PLA 編、国際開発ジャーナル社
<http://hitonomori.com/books/4875390602.html>

『参加型開発と国際協力』ロバート・チェンバース著、明石書店
<http://hitonomori.com/books/4750313076.html>

『ムハマド・ユヌス自伝』モハマンド・ユヌス著、早川書房
<http://hitonomori.com/books/4152081899.html>

仮説のマネージメント

モジュールの目的

開発援助にかかわる人たちは、悪く言えば思い込みに囚われ、良く言っても仮設の確認ができずにしくじることが多い。仮説とは何かの認識を深め、成功する確率を高めるアイデアを学ぶ。

隠された仮説

- 計画が正しければ機能する？！
多くのプロジェクトは期待通りの成果を挙げていない。すなわち「計画が間違っている」あるいは「計画の前提が間違っている」。
- プロジェクトはなぜ期待通りに機能しないか
問題がすべて条件として把握できるのであれば、計画変更によって回避して成功できるはず。実態はそうっていない。その理由は「なぜ機能しないかの理由がわかっていない」から。すなわち「仮説があることに気がついていない」。
計画は因果関係に基づいて作られていることが多いので、一箇所に致命的な仮説が隠れていたら、すべてこける。
- 最大の仮説は？
「計画通りに事を運ぶことができる」というのがそもそも仮説。社会は常に変化しているし、働きかけを行ったらさらに変化は加速する。それは予測不可能。

仮説の洗出し演習

条件と仮説

仮説の確認と回避

チャンスの増やし方

意見か事実か原則か

「分析（どうして）仮説」と「予想（どうなる）仮説」

- 計画全体は仮説
計画の背景にある多くの仮説の存在を見てきたが、計画そのものも仮説。したがって検証やモニタリングの対象となる。

参考文献

『なぜ新規事業は成功しないのか』大江建著、日本経済新聞社
<http://hitonomori.com/books/4532149673.html>

『「仮説」の作り方・活かし方』

<http://hitonomori.com/books/4820745085.html>

『仮説思考』

<http://hitonomori.com/books/4492555552.html>

『開発フィールドワーカー』野田直人著、築地書館

<http://hitonomori.com/books/4806712167.html>

『金持ち父さんのパワー投資術』ロバート・キヨサキ著、筑摩書房

<http://hitonomori.com/books/4480863672.html>

『バフェットとソロス 勝利の投資学』

<http://hitonomori.com/books/4478631107.html>

PRODEFI モデルの紹介

モジュールの目的

PRODEFI モデル（仮称）は講師 野田直人が発案した、住民向けの研修を中心とした村落振興・参加型開発のアプローチ。どのようにしてこのアプローチが生み出されたか、なぜ機能するかについて学ぶ。

PRODEFI モデルそれ自体がかなり汎用性の高い開発のアプローチとなっている。ヒントになるのは、どのような背景で、どのような理由でこのモデルが開発され、実施されたか。

PRODEFI モデルの概要

- 5つの原則にもとづく研修実施

なぜ機能するか

モデルを作った背景

参考資料

PRODEFI モデルの資料は JICA のホームページからダウンロードできます。

(<http://project.jica.go.jp/senegal/6421054E0/magazines.html>)

『確率的発想法』小島寛之著、NHK ブックス

<http://hitonomori.com/books/4140019913.html>

『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか』枝廣淳子・小田理一郎、東洋経済

<http://hitonomori.com/books/4492555757.html>

システム思考の導入

モジュールの目的

開発協力で一般的な直線的な論理思考から抜け出し、効率の良い打開策を見出すための思考回路を鍛える。

直線的な論理

参考文献

『続入門社会開発』プロジェクト PLA 編、国際開発ジャーナル社

<http://hitonomori.com/books/4875390602.html>

『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか?』東洋経済新報社

<http://hitonomori.com/books/4492555757.html>

開発協力の基礎知識・社会編

モジュールの目的

社会の仕組み、力関係、権利関係などは開発支援の成否に大きな影響を及ぼす。すべてを洗い出し、列挙するのは不可能であるが、代表的なものを学び、自分で見つけ出すセンスを身につける。

所有権と利用権

社会の中の単位

グループには注意

リーダーの過信

大切な依存心

ジェンダーとエンパワーメント

参考資料

『口からうんちが出るように手術してください』

<http://hitonomori.com/books/4906640303.html>

『コモンズの社会学』

<http://hitonomori.com/books/478850748X.html>

『コモンズ研究のフロンティア』

<http://hitonomori.com/books/4130460951.html>

『葉っぱで2億円稼ぐおばあちゃんたち』

<http://hitonomori.com/books/4093665362.html>

開発協力の基礎知識・経済・ビジネス編

モジュールの目的

大げさな経済理論や十把一絡げの経済モデルの抽出はあまり意味がないが、基本的な経済概念、経営概念を知らないと大問題。

機会費用 (Opportunity Cost)

限界収益逡減法則 (Law of Diminishing Marginal Return)

内部収益率 (IRR : Internal Rate of Return)

キャッシュフロー

- グラミン銀行の知恵
1週間目から小額のお金を返す必要がある。したがって、フローを伴うものには投資できない。

借金

- レバレッジ
1万円なければ鶏舎ができない。手持ちが千円しかなければ？貸出利率が10%で事業のリターンが20%。では自己資金の利回り (ROI) は？

ローリスク・ローリターン

- 穴を掘らないタンザニア人
タンザニアの農民は種をまくときに穴すら掘らない。農業技術者は「粗放」「原始的」と批判。ではなぜ掘らないのか？

トランザクション・コスト

- 手間隙をかける価値はあるか？
「村で開発委員会を作ってもらおう」。その手間と機能するようになるまでの時間、機能し続けるためのコストは計算されているか？計算した後に他のオプションと比較されているか？

比較

- トレードオフ
多くの物事は同時に行うことができない。同時に一つのことしか選択できない場合には、あきらめざるを得ないオプションを明確にしておく。
- Useful と essential
Useful は不要。「あればよい」「やったほうがよい」程度のものは不要。多くの場合コストに見合うリターンはない。他に有効な使い道を思いつかないだけ。

マーケティング

- 「売る」ことではない
マーケティングは市場に合った商品を見つけたり、作ったりするところから始まる。あらかじめ決められた商品が売れる市場を探すことではない。

損きり

損益分岐点

適正在庫

集中出店

参考資料

『マーケティングを学ぶ人のためのコトラー入門』

<http://hitonomori.com/books/4534036035.html>

『金持ち父さん貧乏父さん』

<http://hitonomori.com/books/4480863303.html>

『ムハマド・ユヌス自伝―貧困なき世界をめざす銀行家』

<http://hitonomori.com/books/4152081899.html>

『入門 マイクロファイナンス』

<http://hitonomori.com/books/4478260818.html>

『道具としてのファイナンス』

<http://hitonomori.com/books/4534039484.html>

『定量分析実践講座』

<http://hitonomori.com/books/490324153X.html>

『一勝九敗』

<http://hitonomori.com/books/4104642010.html>

工夫力を付ける演習

モジュールの目的

実際にあった開発現場の例を見ながら、分析を行い、教訓を学ぶ。現実は多様で、真実を知るのは困難だが、合理的に考え、分析する習慣や視点を持つ。そして自分の判断で工夫する知恵と力と勇気を身につけよう。

演習の内容は講座参加者にのみ公開しています。